

文化・芸術分野における国家的政策目標について

文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成27.5 閣議決定）

- 文化芸術資源で未来をつくり、以下のような「**文化芸術立国**」の姿を創出していくための国家戦略となることを目指すための基本的な方針を示すもの。

【我が国が目指す文化芸術立国の姿】

- ✓あらゆる人々が全国様々な場で創作活動への参加、鑑賞体験ができる機会の提供
- ✓2020年東京大会を契機とする**文化プログラムの全国展開**
- ✓被災地からは復興の姿を、地域の**文化芸術の魅力と一体となり**国内外へ発信
- ✓文化芸術関係の新たな**雇用や産業が現在よりも大幅に創出**

- 「文化芸術立国」の実現のための成果目標と成果指標を提示

【成果目標・成果指標】

日本の誇りとして「文化芸術」を挙げる国民の割合（2014年1月：50.5%→2020年に**約6割**へ）
 地域の文化的環境に対して満足する国民の割合（2009年11月：52.1%→2020年に**約6割**へ）
 寄付活動を行う国民の割合（2009年11月：9.1%→2020年に**倍増**へ）
 鑑賞活動をする国民の割合（2009年11月：62.8%→2020年に**約8割**へ）
 文化芸術活動をする国民の割合（2009年11月：23.7%→2020年に**約4割**へ）
 訪日外国人旅行者数（2014年：1,341万4千人→2020年に**2000万人**へ）

文化芸術推進基本計画（第一期）（平成30.3 閣議決定）

- 文化芸術基本法に基づき、文化芸術に関する**施策の総合的かつ計画的な推進**を図るための基本計画

II 今後の文化芸術政策の目指すべき姿

文化芸術は、それ自体が固有の意義と価値を有し、心豊かな活力ある社会の形成にとって極めて重要な意義を持ち続けるという**文化芸術基本法の精神を前提**とし、以下のように定める。

目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育

文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されている。

目標2 創造的で活力ある社会

文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランド形成に貢献し、活力ある社会が形成されている。

目標3 心豊かで多様性のある社会

あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されている。

目標4 地域の文化芸術を推進するプラットフォーム

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地で形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティが形成されている。

文化芸術立国中期プラン（平成26.3 文化庁）

- 2020年末時点において、美術館や博物館、音楽ホール等「**上野の杜**」への**来訪者数**（現在年間1100万人〔2009年実績等〕）**が増加している（目標は3000万人）**。

上野「文化の杜」新構想

上野「文化の杜」新構想（平成27.7 上野「文化の杜」新構想推進会議）

上野「文化の杜」新構想推進会議

- 平成25年12月24日、青柳文化庁長官及び宮田東京藝術大学学長を発起人代表として発足。
- 上野地区において年間3,000万人の集客を可能とするために必要なハード・ソフト両面にわたる整備方針について検討することを目的とする。（上野「文化の杜」新構想推進会議・設立趣意書より）
- 上野公園内の文化施設、文教施設、行政機関、観光連盟、鉄道事業者により構成される。
- 2020年に向けた国際発信戦略として、平成27年7月、上野「文化の杜」新構想をとりまとめた。

【ポテンシャル】

- 上野公園は、寛永寺、上野東照宮、清水観音堂をはじめ江戸時代の建造物や史跡等の歴史的資源と、桜の名所や不忍池等に代表される自然環境に恵まれ、我が国を代表する博物館、美術館、動物園、音楽ホール等の文化施設や芸術系大学等が集結し、それぞれ文化芸術活動等を展開している
- 内国勧業博覧会や東京勧業博覧会が開催されるなど、近代的な祝祭の中心地として、また、最先端の産業文化の国家戦略的な交流発信の拠点でもあった
- 徒歩で回れる範囲内に多様かつ高度の文化・教育施設が集積している世界的にも稀有なエリア**である

【課題】

- 各施設の創意工夫による「点」としての活動にとどまっておらず、それぞれ設置者が異なる各施設どうしの連携した事業はあるものの、十分とはいえない
- 「文化の杜」全体としてのイベントや環境づくりを推進するための**マネジメント体制を新たに構築**することが必要
- 高齢者・障がい者が安全・安心で利用しやすい**ハード・ソフト両面の整備**や時代を担う子どもたちが「芸術」にふれあい、感動し、心ゆたかに、常に<ときめき>が満ちあふれることができるよう、**上野「文化の杜」や街に「新たな賑わい」を創り出していく**ことが重要

【文化芸術資源の活用に向けた取り組みの推進】

- 魅力あるイベント等の共同実施
 - 年間を通じた集客拡充を図るための「共通イベントや文化プログラム等の実施」
 - 観光客等の利便性（集客）を高めるための「共通入館券の発行等」
- グローバル化を先導するための「効果的な広報戦略の展開」
- 国立西洋美術館の世界遺産登録の推進
- 安全・安心で入場、観覧出来るための「ユニバーサルデザインの推進と利用促進」
- 上野「文化の杜」を担うための「職員の資質向上と高度専門人材育成（連携型）」
- 上野「文化の杜」新構想の実現可能性を広げるための「文化芸術特区の可能性」

【国際文化交流の拠点と新たな賑わいづくりに向けた基盤整備】

- 快適なアクセスの確保
 - 安全・安心で快適なアクセス・ポイントにするための「**JR上野駅周辺の整備**」
 - 公園内の移動や他地域との回遊性を高めるための「**アクセス環境の整備**」
- 展示スペースや共同利用施設の整備
 - 3,000万人の集客を実現するための「**展示スペースの充実**」
 - 限られた資産を有効活用するための「**共同利用施設等の整備**」
- 安全性の確保と地域防災に貢献するための「**防災拠点等の整備**」
- 上野全体のまちづくりを活性化するための「**エリア・マネジメントの推進及びアート・クロス等の整備等**」